

平成30年度第2回熊本県糖尿病療養指導研修会(報告)

主 催 熊本県糖尿病療養指導士会

日 時 平成30年 9月 2日(日) 8:55~16:15

会 場 名 熊本県立大学 中ホール

◇『地域で継続できる教育ツールを使った連携』

講師:佐賀大学医学部付属病院 糖尿病看護認定看護師 藤井 純子先生

佐賀大学医学部附属病院では、地域で継続できる教育ツールとして、日本糖尿病協会が作成した糖尿病療養指導カードシステムを用いており、そのシステムについて導入から実践までの流れを事例も交え、丁寧にご説明いただきました。また、佐賀県内のA市では糖尿病治療中の住民を対象に、グループ療法の一つである糖尿病カンバセーションマップを行うことで、糖尿病罹患者の治療に対する動機付けに繋がったとの報告をいただきました。最後に佐賀糖尿病療養指導士会では「あいうえお塩分表」という、地域住民に馴染みのある食品の食塩含有量一覧表の作成に取り掛かっているそうです。ボリュームのある内容で、「教育ツールを取り入れたいけど…」、「地域住民との関わり方が…」などで悩んでいる参加者にとってヒントとなる講演でした。

◇『在宅糖尿病患者の薬のリスクを防ぐ地域連携のコツ』

講師:フローラ薬局河和田店(茨城県)薬局長 管理薬剤師 篠原 久仁子先生

様々な病気を合併しやすい高齢者、特に糖尿病患者はポリファーマシーになりやすく、残薬も多いという現状があり、その原因とそこに薬局がどう関われるかの話から、ポリファーマシー解消のコツ、地域連携とポリファーマシー解消のツボについて、具体的な症例も交え、ご講演いただきました。フローラ薬局はハーブ園もあり、健康サポート薬局として地域に親しまれている印象を受けました。ご厚意でお配り頂いたハーブ入りキャンディーを美味しくいただきながらの終始和やかな講演でした。

◇『すぐに実践 運動習慣』

講師:医療法人財団聖十字会 西日本病院 日本糖尿病療養指導士 理学療法士 藤本 祐輔先生
医療法人財団聖十字会 西日本病院 日本糖尿病療養指導士 理学療法士 高木 将太郎先生

糖尿病の運動療法について、その必要性や方法、習慣化するためのコツなどの内容でした。筋力訓練は実際に参加者が身体を動かして体験し、運動あり笑いありで座学での疲労をリフレッシュできました。また、日常生活も運動として考えることで、運動習慣のない患者でも取り組みやすくなるという話は、実際の運動とのメッツ比較があり、とても分かりやすく、ためになる内容でした。

◇『訪問看護師のアンケート調査から見えてきた

医療機関における糖尿病在宅療養支援の課題』

講師: 公益財団法人健和会 健和会大手町病院 糖尿病看護認定看護師 十時 綾子先生

訪問看護師へのアンケート結果から、①患者の状況を多職種で検討し必要な在宅療養支援を明らかにすること、②患者・介護者への教育・情報提供を行うこと、③多職種・多機関と情報共有し、連携することが重要であるとの内容でした。このアンケートは7施設の訪問看護ステーションが対象になっていましたが、他の訪問看護ステーションでも同様なことで悩まれていると思います。在宅との連携に困っている参加者にとっても手掛かりとなる講演でした。

◇『糖尿病患者さんのタイプを知り効果的なコミュニケーションを考える

～コーチング流の診断結果より～』

講師: 医療法人財団聖十字会 西日本病院 糖尿病看護認定看護師 藤本 有紀先生

コーチングはセルフケア行動を促す考え方の一つで、患者自身が自ら考え、自発的に行動し、成長していくコミュニケーションの方法だそうです。基本スキルとして①聴く②質問する③承認する④伝える、の4つがあり、毎日のコミュニケーションの中で意識することで上達するとのことでした。また、コミュニケーションタイプを分類することで多職種が効果的なアプローチに繋がりやすくなるそうです。演習もあり、すぐにも栄養指導等に活かせるような内容でした。

今回は看護師が多く79名、薬剤師6名、検査技師10名、栄養士44名で、総勢139名でした。
ご講演頂きました6名の先生方ありがとうございました。